

支援のアイデア I

特別支援学級や通級指導教室ではもちろん、通常の学級においても、個々の生徒がどのようなことで困っているかを把握し、その生徒に合った支援を行うことが重要です。

① 話を聞けるようにするために・・・

どんな状態？

集団の中での指示を聞き漏らしてしまう

学級全体の中では、自分に言われているという意識をもちにくい。

集団の中では話に集中できない。

なぜそうなるの？

聞くことが苦手なため、口頭だけの指示では聞き間違えたり、聞き漏らしたりしてしまう。

聞かなければならない声に集中できない。

聞いた内容を、短い時間でも記憶することが難しい。



支援のポイント

- 正面から目を見て、具体的なことばで、短くはっきり話す。
- 絵や写真、カードを使って、視覚的な手助けをする。
- 名前を呼んだり、肩に手をおいたりして注意を引きつける。
- 1回に1つの指示をする。
- 話し終わった後、本人に内容を確認する。
- 分かりやすいことばや内容で指示をする。

② 楽しく文字を書けるようにするために・・・

どんな状態？

枠の中に文字がバランスよく収まらず、はみ出してしまう。

形の似た文字を書き間違えたり、鏡文字を書いたりすることがある。

拗音や促音を書きまちがえてしまう。

黒板や教科書の文字を書き写すのが苦手。

なぜそうなるの？

文字の形をとらえたり、記憶することが苦手である。

目と手の適応運動がうまくできない。

空間の認知が苦手である。



支援のポイント

- なぞり書きを通して、文字の形を意識させる。始点・終点を意識してバランスよく書けるようにプリントを作成する。
- 文字全部を書いたもの、途中まで書いたもの、始点のみのもので段階的に練習できるようにする。
- 大きいマス目のノートを使用させ、段階的に小さくする。
- 拗音や促音は、単語を耳で聞いて書き取る練習をする。拗音や促音が入るマス目に補助線を入れて、文字の位置と大きさを意識させる。
- 板書する文字の量を少なくしたり、チョークの文字の色を工夫したりする。
- 黒板と同じ内容の手本を手元で見て、書かせるようにする。

③ 文字や文を正しく読むために・・・

どんな状態？

教科書などを読むときに、行を読みとぼしたり、同じところを読んだりする。

文字を抜かしたり、文末を変えて読んだりする。

文字は読めても、単語や文として読むことが難しい。

なぜそうなるの？

注意や集中の困難さから、必要な部分だけをうまく見ることができない。

文字の形を正しくとらえることや、文字と音を対応させることが苦手。

単語や文節をまとまりとしてとらえる、語彙を結びつける、記憶するなど原因がある場合がある。

支援のポイント

- 文字を大きくする、行間を広げる、分かき書きにするなどして読みやすくする。
- 読めない漢字にはふりがなをつけたり、単語や文節ごとに区切って、指で押さえながら読ませる。
- 単語カードを使って、単語を素早く読み取る練習をする。
- 文節読みや交互読みなどの方法を取り入れた練習をする。
- 紙でかくしたり、スリットのある道具を使ったりすることで、1行だけ見えるようにする。

④ 楽しく話すことができるために・・・

どんな状態？

自分の気持ちをうまく表現することができない。

相手が何を言ったのかを忘れてしまう。

尋ねられたことに答えられない。

なぜそうなるの？

出来事を順序よく整理することができないため、表現することが苦手である。

人の話を集中して聞き取ることができない。

記憶する力が弱いため、相手の質問に対して答えがちぐはぐになる。

構音障がいや吃音のために、話すことに自信がない。



支援のポイント

- 出来事を時間や順序に従い、カードに書き、カードを見ながら話をさせる。
- 子どもの話しかけに対して相づちを入れて会話の形式を覚えさせたり、会話の形式をロールプレイなどで学習させたりする。
- 「はじめに」「次に」「最後に」など、話のパターンを練習させる。
- 伝言ゲーム等を通して、「聞くこと」「話すこと」の練習を繰り返す。
- 自分の気持ちを書いた短文を教師と一緒に読むことで緊張をほぐし、自信をつけさせる。

⑤ 忘れ物を少なくするために・・・

どんな状態？

時間割にそって学習用具を準備することができない。

特別教室などへ行く時、必要な物を一人でそろえることが難しい。

忘れ物が多いために、学習への意欲も薄れてしまう。

なぜそうなるの？

不注意であるために、メモを見ることを忘れたり、確認しながら必要な物を準備したりすることが難しい。

短期記憶が弱いために、聞いただけでは覚えられない。

支援のポイント

- 帰りの会の時間に、明日の準備物について連絡帳に必ず書く訓練を繰り返す。
- 連絡帳を家での準備に使う習慣を付けさせるために、保護者に協力を依頼する。
- 担任がこまめに声をかけたり、周囲の子どもに支援をお願いしたりする。
- 1週間分の時間割をうまく見ることができない子どもには、1日分ずつ時間割を分割して渡す。
- 時間割や準備がしっかりできたときには、シールを貼って自信をつけさせる。

⑥ 身の回りの整理整頓をするために・・・

どんな状態？

机の上やロッカーの中が、ごちゃごちゃになっている。

配られたプリントを机の中に押し込んでしまう。

自分の物をいろいろな所に落とし、物をよくなくす。

なぜそうなるの？

空間、位置の認知が弱いために、どこにおけばよいのかのイメージが浮かばない。

その場で判断しながらいくつかの作業を並行して行うことが難しい。

片付けの途中で注意がそれ、見通しをもって考えたり、計画的に行動する力が弱い。



支援のポイント

- 片付ける場所や入れ方を一つずつ具体的に教え、繰り返し練習する。
- ロッカーや机に、片付ける物の写真を貼り、物と場所を視覚的に判断できるようにする。
- 自分の持ち物には、一目で分かるようなマークを付けておく。
- 活動中は、必要な物だけを机に出させ、使わない物はすぐに片付けさせる。
- 片付けの練習をする時には、見通しの立てやすい狭い場所からはじめて、自信を付けさせながら徐々に広げていく。

⑦ 行事にスムーズに参加するために・・・

どんな状態？

初めての場所や行事には参加できなかったり、ふさわしくない行動をしたりする。

時間割の変更があると、参加できない。

活動が理解できずパニックになる。

なぜそうなるの？

初めての経験や場所では、様子をイメージすることが難しく、先の見通しが持てないため、落ち着かなくなる。

慣れない環境の中で、ストレスが大きくなって適応できず、行動するのをいやがることもある。



支援のポイント

- 行事の日時が視覚的に捉えられるように、カレンダーに書いて示しておく。
- 儀式的な行事は、リハーサルをして動き方が分かるようにしたり、メモを持たせて進行が見通せるようにする。
- 活動に耐えられなくなったときは、申し出てクールダウンできることを伝えておく。
- 達成感を重ねられるように出番を配慮したり、すぐに補助できる体制を整えていることを伝えておく。
- 安心して参加できるように、力を貸してくれる友達と同じグループにする。
- 変更がある時には、事前に個別に伝える。

⑧ 時間を守れるようにするために・・・

どんな状態？

休み時間終わりのチャイムがなっても、遊び続ける。活動を中断することができない。

作業を決められた時間内に終わらせることが難しい。

チャイムの合図や時計を意識できない。

なぜそうなるの？

こだわりが強いために好きなことを中断できない。行動の切り替えに時間がかかる。

いろいろな刺激が多すぎて集中できない。

時計の見方が分からない。

支援のポイント

- チャイムがなったら、「終わり」のカードを見せて、聴覚と視覚を結びつける練習をする。
- 活動の見通しを具体的に、視覚的に示す。
- 予告や猶予をもたせる言葉かけをして、気持ちの切替えの心の準備をさせる。
- タイマーを活用して、時間の進み具合を視覚的に理解させる。
- 刺激を制限して集中が続くように、机の配置を工夫する。
- 日常生活の中で時計を活用して、時間を意識させる。

⑨ 教室から飛び出さないようにするために・・・

どんな状態？

教室に入らず、校内を歩き回っている。

授業に飽きたり、嫌なことがあったりすると教室を飛び出してしまう。

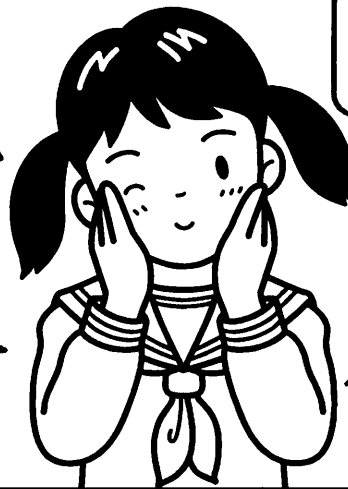
いつも同じ場所にももって動かない。

なぜそうなるの？

感覚過敏のため、集団の騒々しさに耐えられなくなり、その場から逃げようとする。

授業の内容を理解できず、参加できない。

特定の物や場所へのこだわりがある。



支援のポイント

- 分かりやすい授業を心がけ、できるだけ声かけをしたり、授業の中で活躍できる場を設定したりする。
- 集団の騒々しさや話し声に敏感になって、神経的に疲れている様子が見られるときには、静かな場所で休ませる。
- 「居場所カード」を決められた場所に貼ったら、教室から出てよい約束をする。
- 教室を飛び出しそうな様子が見えたら、教師が意図的に用事を頼んで気分転換を図る。
- 感情のコントロールをして教室に居ることができたら、シールを貼るなどして、視覚的に分かりやすい評価をすることで自信をつけさせる。

⑩ 遊びやゲームのルールが分かり、楽しく参加できるようにするために・・・

どんな状態？

友達と遊んでいるうちに、けんかやトラブルになってしまう。

集団の遊びに参加せず、一人でうろうろしている。

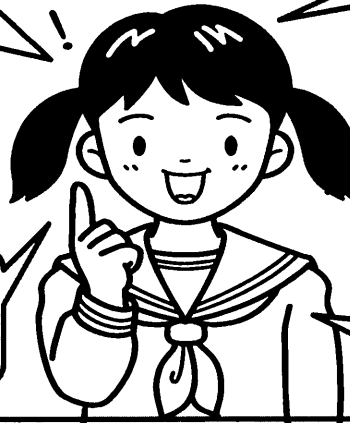
途中で遊びから抜けてしまう。

なぜそうなるの？

ゲームのルールや作戦を理解することが苦手で、できないことを非難されるかもしれないと思ってしまう。

ルール等の途中からの変化に対応できない。

運動機能の困難さがあり、負けることががまんできない。



支援のポイント

- ゲームのルールや遊び方、順番などをカードに書いて、事前に説明する。
- 勝ち負けを受け入れることができるように、適切な行動の仕方についてせりふ等を示しておく。
- 苦手意識が強い場合は、参加しやすいルールをみんなで考えて決める。
- 友達とのトラブルで興奮している時には、気持ちを落ち着かせる場所と時間を用意する。
- 本人の気持ちが落ち着いたら、十分話を聞いたうえで視覚的に分かるように情報を整理して、どうすればよかったのか一緒に考える。

⑪ 気持ちのコントロールをするために・・・

どんな状態？

突然大声をあげたり、かんしゃくをおこす。

乱暴な言動や危険な行動をとる。

指名されていないのに、勝手に自分の言いたいことを言う。

自分のやりたいことができないとイライラして物に当たる。

なぜそうなるの？

自分の行動を抑制する力が弱いために、思いつくとすぐに行動してしまう。

解決の手段として、目立つ行動で注目を集める方法を誤って学んでいる。

幼児期の愛情不足、虐待、放置などが原因になっている場合がある。



支援のポイント

- 肯定的な言い方や自己決定できる余地を残した言葉かけをする。
- 授業に参加できないときは、他の子どもの様子を離れて見ることからはじめ、参加できたらほめることで自信を付けさせる。
- ソーシャルスキルを使って、具体的な対処方法を教える。
- 感情のコントロールができないことで、自分自身を否定することがないように励ます。
- 適切に行動できたことを自覚させ、褒めることで正しい行動を強化する。
- クールダウンのための約束事を決めて、適切に活用する。